

金融のグローバル化について

ニクソンショックによるブレトンウッズ体制の崩壊、1970年代を境に開始された金融自由化、その後の金融資産の蓄積、金融イノベーション、IT（情報技術）の発達によって金融グローバル化が進展していった。今やインターネットさえあれば自宅からでも個人が国際的な金融取引をボタン一つで行える時代になっている。

金融のグローバル化は、国境を越えた資金の移動によって、国際的な資産運用を可能にすること、また、新興国が経済成長できるようにすることを通じて、様々な便益を世界経済にもたらした。

しかし、金融のグローバル化は負の面も持っている。その一つとして、金融危機の多発傾向がある。事実、金融のグローバル化が加速した1970年以降、1997年のアジア通貨危機、1998年のロシア危機とそれに伴うLTCMの破綻、そして2007年のアメリカを震源地としたサブプライム金融危機に代表されるように、金融危機が数多く生じている。この点について、膨大なデータに基づいて歴史的な検証を行ったK・ラインハートとK・ロゴフが、その著『国家は破綻する：金融危機の800年』（邦訳タイトル）においてグローバル化と金融危機の発生傾向の間に正の相関関係があることを指摘している。また、1970年以降の金融危機は、一国一地域で発生した金融危機の影響が一国一地域のみならず、他のエリアに波及するグローバル金融危機と呼ぶべき状況にまで発展することもある。さらには、近年G20においても議論となっている、タックスヘイブン問題についても金融のグローバル化の産物といえるだろう。

このように金融のグローバル化は経済と金融の成長をもたらした反面、グローバル金融危機を通じて実体経済に深刻なダメージを与えるなどの負の面も抱えている。そのため本テーマでは、金融のグローバル化について、各国の金融システムや金融規制の変遷を踏まえながら、金融のグローバル化がもたらす利点と弊害について理解を含めていきたい。またその際は、金融のグローバル化に対する各チームの意見を明確にしたうえで今後望ましい金融システムのあり方について学生ならではの活発な議論を期待する。

| 主な論点 | 留意点 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">金融のグローバル化とは何か金融のグローバル化の利点金融のグローバル化の弊害望ましい金融システムのあり方 | <ul style="list-style-type: none">金融システムおよび金融規制の変遷金融のグローバル化が先進国と新興国に与える影響（またその影響の相違）金融危機、グローバル金融危機と金融のグローバル化との関係 |